

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

被告人本人の上告趣意のうち、判例違反をいう点は、所論引用の判例は事案を異にし本件に適切でなく、その余は、憲法一條、三一條、三七條一項、二項違反をいう点を含め、実質は事実誤認、単なる法令違反の主張であり、弁護士酒井大の上告趣意は、憲法三七條一項違反をいう点を含め、実質は事実誤認、単なる法令違反の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五條の上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四條、三八六條一項三号、一八一條一項但書により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五七年一〇月二九日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	伊	藤	正	己
裁判官	木	戸	口	久
裁判官	安	岡	満	彦